

第2学年 国語科学習指導案

日 時 7月11日(土) 1校時
対 象 2年1組 31名
授業者 高橋 憲子

1 単元名 スイミーはなぜ? ～ようすを思いうかべて考えよう～ 「スイミー」(光村図書)

2 校内研究との関わり

本時では、児童から出された問いに対し、友達や教師との対話を通して、自分の考えをまとめていく姿を目指す。その際、様子を表す言葉に着目させながら、それぞれの場面の出来事や登場人物の行動や様子を具体的かつ豊かに想像できるようにしたい。

本時では、「自律に向かう学び」のうち、以下の段階を位置付ける。

- ㊦ 教師の進行の中で自分の考えをもつ。
- ㊧ 子どもが選択する場面が生まれる。
- ㊨ 児童と教師が学びの進め方を調整する。

さらに、一人ひとりが安心して学びに向かうとともに、考えの違いを理解し合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりすることができるように、

- ① 学習に対する多様性
- ② 認知・思考に関する多様性

を生かした学びにつなげたい。

3 本時の授業

(1) 目標

四の場面の問いについて話し合う活動を通して、スイミーの行動やその理由について叙述を基に想像し、自分の考えをまとめることができる。

(2) 展開 6/9

学習活動	・教師の働きかけ ◎評価 ☆支援 □校内研究との関わり
1 音読し、前時を振り返る。	・スイミーが元気を取り戻した場面であったことを確認する。
2 課題(本時の問い)を確認する。 とい どうしてスイミーは、マグロがいるのに、赤い魚たちとかくれないで、出て行こうと考えたのかな。	・学習計画から本時の問いを確認する。
3 音読し、考えをもつ。(個人または少人数で) ・海にはおもしろいものがたくさんあることを赤い魚たちに知らせたかったから。 ・いつまでもそこにいるわけにはいけないと思ったから。	・考えだけでなく、そのように考えた理由もノートに書くようにする。 □一人で考えることが難しい児童や自信がもてない児童は友達と話し合いながら自分の考えをまとめてもよいこととする。〔多様性①〕 □気の合う友達でないと思うように話せない児童もいるため、安心して課題に向かえるように、話す相手は自分で選ぶことを伝える。〔自律㊧〕
4 全体で考えを交流する。 ・スイミーも海のおもしろいものを見て元気を取りもどしたから、赤い魚たちにも元気を取りもどしてほしいと思ったからだと思う。	□叙述や挿絵、自分の経験などと結び付けて考えを交流するようにする。〔自律㊨〕 □自分の考えとそのように考えた理由を話すようにし、似た考えだけでなく、違う考えもあることに気付けるようにする。〔多様性②〕

5 スイミーが考えている様子を想像する。 ・かくれていてもなにもかわらないから、どうするか考えようという気持ち。 ・「いろいろ考えた」と書いているから、大きな魚のふりをすることだけでなく、いろんなさくせんを考えたと思う。 ・「うんと考えた」だから、すごくなやんだと思う。 6 大きな魚のふりを教えるスイミーの様子を捉える。 ・もし、はなればなれになれば、大きな魚に食べられてしまうかもしれないから、いっしょうけんめいれんしゅうしたと思う。 7 自分の考えをまとめる。 例 スイミーは、赤い魚たちに自分のきょうだいたちのようになってほしくなかったから、たすけたかったし、すばらしい海でたのしくくらしたいと思ったから、ゆう気を出して考えたと思う。 8 まとめを共有し、振り返りをする。	□交流した考えがより深まるように、スイミーがどんな気持ちで「いつまでもそこにじっとしているわけにはいかないよ。」と言っているのか想像するように促す。〔自律④〕 ・「考えた」が3回繰り返される表現から、スイミーが気軽な気持ちで赤い魚たちを誘っているのではないこと気付かせたい。 ・倒置法で強調されている表現方法や「けっして」「もちば」などの言葉に注目させるとともに、どうして決して離ればなれにならないことが必要なのか考えるようにし、スイミーの真剣さや勇気に気付かせたい。 ・話し合ったことをもとに、考えを自分の言葉でまとめることを伝える。 ☆自分でまとめることができない児童には、「スイミーは、○○だから△△と考えたと思う。」などの型を提示して支援する。 ◎スイミーの行動やその理由について、叙述を基に想像し、自分の考えをまとめることができている。 【思考・判断・表現】ノート ・まとめたことを発表し、それぞれの考えの共有をする。 ・振り返りをノートに書くようにする。
---	--